

【学生による ESD 学習支援活動】
奈良市立飛鳥小学校 カヌー体験教室 支援報告書

幼年教育専修 1 回生 福井 遊

1. 実施日 8 月 3 日(土)
2. 活動場所 奈良市立飛鳥小学校
3. 参加者 伊藤拓海(大学院生)
仲村幸奈、西條秀哉、山本健太、稲原龍一、東川美緒、井原奈佑、南方玲美
久保かのん、福井遊
株式会社モンベルスタッフ 6 名
奈良市立飛鳥小学校教員 3 名、児童 約 30 名

4. 活動支援内容

令和元年 8 月 3 日に飛鳥小学校でカヌー体験教室が開催され、本学ユネスコクラブの学生が活動支援を行った。カヌー体験をする班と水遊びをする班に子どもたちをグループ分けし、3 タームに渡って行われた。

今回の活動で感じたことは以下の 2 つである。1 つ目は学校と地域、家庭の関わり、2 つ目は事前準備の大切さである。

1 つ目の学校と地域、家庭との関わりについてである。カヌー体験教室では、様々な地域の人々、教員が協力することで、災害時における水の怖さなどを学ぶ機会となっている。地域の関係が希薄になっている現代で、このイベントに参加する企業・地域の方・保護者など多くおられることは素晴らしいことだと感じた。また、この行事には母親だけでなく、父親も多く参加していた。学校の行事に母親が参加することはあっても、父親が参加できる機会は仕事の関係で少ない。今回の活動は学校行事ではないが、教師も沢山参加していたので父親が子どもの通っている学校や子どもと教師の関わりを見ることのできるいい機会だったように感じる。

2 つ目は、事前準備の大切さである。ユネスコクラブの学生は当日からの参加だったが、子どもたちが来る前にライフジャケット着用の練習にとカヌーを体験させていただき、実際に転覆したり、ボートに入った水を抜いたりなどの救助の練習も行った。それによって子どもたちが転覆してしまったり、困ったりしているときでも安心して焦らず救助することができた。

以上が支援活動を通じて学んだことである。今回が初めての ESD 学習支援活動であり、分からないことも多くあったが、教師がどのように子どもたちと関わっているか、一つひとつの活動が教師だけでなく、地域の方々など多くの人が関わって作られていることを学ぶことができた。しかし、カヌーを体験する時間が長く、飽きてしまっている子どももいたようなので水中でできるゲームや、ライフジャケットの有効性を実感できるような遊びを用意しておくべきだったなどと反省点もあった。来年はこれらの反省を活かしてさらによりカヌー体験教室の支援を行えるよう工夫したい。



カヌー体験の様子